

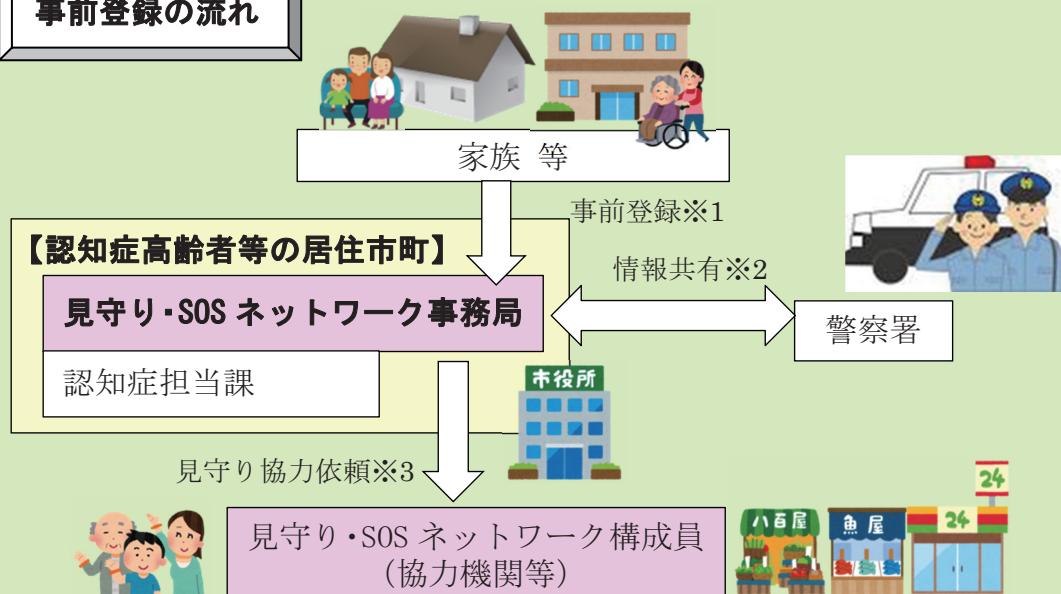
3 認知症高齢者等が安心して外出できるために（行方不明の未然防止）

（1）事前登録による見守りネットワーク

ネットワークに事前登録のあった認知症高齢者等については、その人の地域とのつながりを把握し、本人や家族の理解を得た上で、散歩のルートやよく行く場所を確認するとともに、その周辺のお店や施設の人、近所の人などに見守りや声かけ、異変（様子がおかしい、いつものルートと違うなど）を感じた場合に家族への連絡をお願いするなど、1人1人地域の見守り体制を検討します。（地域ケア会議を活用している市町もあります）

認知症高齢者等は、その人なりの理由があつて外出します。無理に外出を制限するのではなく、周りの人々に温かく見守られながら、安心して出歩くことができるまちづくりを進めましょう。

事前登録の流れ



※1 行方不明が心配な場合、見守り・SOS ネットワーク事務局等に事前登録を行う。

【事前登録内容】

氏名(旧姓)、生年月日、住所、身体的特徴(身長、体重、足のサイズ、ほくろの位置等)、最近の顔写真、外出コース、よく行く場所、緊急連絡先 等

※2 警察と行政が協議した上で、事前登録の情報を警察と見守り・SOS ネットワーク事務局で共有することで、迅速に行方不明者発見活動が開始できる。

※3 ケース会議等で、事前登録者1人1人の見守り体制を検討し、必要に応じてネットワーク構成員等に協力を求め、地域で見守りを行うことで、行方不明の未然防止につながるだけでなく、安心して暮らせる環境づくりにもつながる。



先進市町からのアドバイス

- ・事前登録者1人1人の見守り体制を検討することで、地域の見守り力が上がった
- ・事前登録者には個別の地域ケア会議を開催し個別のネットワークを構築することが大切

本人と地域の人とのつながりを把握し、よく行くお店、散歩コースのガソリンスタンド、お寺などの本人を中心とした地域の人々に本人・家族とともに協力を求める。
(例) あいさつをするなど声をかけてもらう。金の支払いに困っている時の対応や気になる変化がある場合の連絡等

(2) 地域の見守り力を高める働きかけ

① 認知症サポーター養成講座の実施

認知症高齢者等の見守り・SOS ネットワークを構築する目的の1つは、地域住民の認知症に対する理解を深めることです。認知症サポーター養成講座を実施することで日頃からの地域での見守りに協力を求めましょう。

まちで高齢者が、道に迷っていたり、具合が悪そうだったり、
お金の支払いに戸惑っていたり、
危険な行為（無理な道路の横断など）をしていたり、
どこか様子がおかしかったり（靴を履いていないなど）していたら・・・

周りの人が優しく声をかけ、手助けすることが、認知症高齢者等の
行方不明や事故を未然に防ぎ、認知症高齢者等が安心して外出できる
まちづくりにつながります。



② 住民・事業者等（協力団体）との見守り体制の整備

できるだけ多くの事業所や団体などにネットワークへの参加を呼びかけ、構成員には、認知症サポーター養成講座を受講してもらいましょう。

日常と異なる不審な点・気になる点に気づいた際に、市町等へ連絡することで早期の対応につながります。

【異変の例】

明らかな異変		<ul style="list-style-type: none"> ・人が倒れていたり、座り込んでいて呼びかけに応じない。 ・異臭がして明らかに様子がおかしい。
異変が疑われる場合	外見から見た異変	<ul style="list-style-type: none"> ・郵便物・新聞等の配達物が取り入れられていない状態が続いている。 ・同じ洗濯物が干されたままの状態が続いている。 ・早朝でも室内の電灯が点いたままの状態が続いている。
	本人の姿から見た異変	<ul style="list-style-type: none"> ・極端に痩せている。顔色が悪い。 ・季節に合った服装をしていない。同じ話を繰り返す。

※兵庫県地域見守りネットワーク応援協定資料抜粋

③ 声かけ模擬訓練の実施

住民・事業者等（協力団体）に参加していただき、認知症高齢者等への声のかけ方などを体験していただくことも大切です。

また、見守り・SOS ネットワークを活用した模擬訓練（発見協力活動＋声かけ体験）をすることで、ネットワークの連絡体制や協力活動の実際を体験し、ネットワークの点検をすることができます。